農研機構果樹茶業研究部門
研究推進部

令和８年度　果樹茶業研究会
「落葉果樹研究会」「常緑果樹研究会」「寒冷地果樹研究会」
「果樹病害研究会」「果樹虫害研究会」
開催要領

１．開催趣旨

落葉果樹、常緑果樹、寒冷地果樹及び果樹病害虫に係る試験研究の問題を取り上げ、技術情報の交換、研究課題の整理、研究手法の深化等を図る。また、果樹関係試験研究機関等の研究者相互の連携の強化や試験研究の効率化に資するため、本研究会を開催する。

２．主催

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門

３．参集範囲

【公開】の会議については、農林水産省、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関、普及指導機関及び大学等の関係者を対象とする。

【非公開】の会議については、農林水産省の関係者、国立研究開発法人及び公設の試験研究機関の研究者及び主催者が必要と認める者を対象とする。

４．研究会の開催概要

会議名	開催日時	開催場所
全体会議	令和９年１月26日（火）　９：50 ～　１月26日（火）12：00	つくば市 つくば国際会議場 Leo Esakiメインホール
落葉果樹研究会	令和９年１月26日（火）13：30 ～　１月27日（水）11：20	つくば市 つくば国際会議場 中ホール
常緑果樹研究会	令和９年１月26日（火）　13：30 ～　１月26日（火）16：40	つくば市 つくば国際会議場 中会議室202
果樹病害研究会	令和９年１月26日（火）　13：30 ～　１月27日（水）12：00	つくば市 つくば国際会議場　大会議室101
果樹虫害研究会	令和９年１月26日（火）　13：30 ～　１月27日（水）12：00	つくば市 つくば国際会議場　大会議室102
寒冷地果樹研究会	令和９年１月22日（金） ９：00～12：00	盛岡市 キオクシアアイーナ803会議室

５．参加申込方法

別紙１の「令和8年度果樹茶業研究会・出席申込書」に、必要事項を場所ごとにとりまとめ、農研機構

果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室宛に令和８年12月15日（火）までに申し込んで下さい。

注）並行して開催される「果樹・茶系統適応性検定試験成績検討会（落葉果樹）」に出席の方もこの申込書をご利用いただいて結構です。

６．問合せ先

○出席申し込み・果樹茶業研究会全般に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門研究推進部研究推進室

E-mail： sh-NIFTS_kenkyukai@naro.go.jp　　電話：029-838-6451

○落葉果樹研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門果樹基盤研究領域　児下　佳子

E-mail：koshita.yoshiko450@naro.go.jp　電話：029-838-6461

○常緑果樹研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門カンキツ研究領域　喜多　正幸

E-mail：kita.masayuki047@naro.go.jp　電話：054-369-7101

○果樹病害研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域　須﨑　浩一

E-mail：suzaki.koichi943@naro.go.jp　電話：019-645-6156

○果樹虫害研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門果樹基盤研究領域　外山　晶敏

E-mail：toyama.masatoshi111@naro.go.jp　電話：029-838-6550

○寒冷地果樹研究会に関する問い合わせ

農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域　岩波　宏

E-mail：iwanami.hiroshi762@naro.go.jp　電話：019-641-6355

７．その他

○　落葉果樹研究会、常緑果樹研究会、寒冷地果樹研究会の資料は当日会場にて配布いたします。

○　果樹病害研究会、果樹虫害研究会の要旨は、ホームページより事前にダウンロードして会場へご持参ください。パスワード等につきましては参加登録者にお知らせします。

○　令和９年１月26日　～27日に開催される「落葉果樹研究会」「常緑果樹研究会」「果樹病害研究会」「果樹虫害研究会」につきましては、果樹・茶系統適応性検定試験成績検討会（落葉果樹）との合同交流会を1日目（26日）夕方に開催いたします。出席希望者は、出席申込書（別紙1）を利用してお申し込みをお願いいたします。

出席申込書（別紙１）は以下のURLからダウンロード可能です。

URL： https://www.naro.go.jp/laboratory/nifts/contents/kaigi/index.html

全体会議

「深刻化する果樹難防除病害虫への対応と省力化技術」

令和９年１月26日（火）９：５０～１２：００

【趣旨】

果樹生産を取り巻く環境は、気候変動や外来生物の侵入、生産者の高齢化や担い手不足などを背景に大きく変化しており、病害虫被害の拡大や防除作業の省力化が喫緊の課題となっている。近年では、全国的に分布を拡大しモモやウメなどに深刻な被害を与えるクビアカツヤカミキリ、連年多発生が続き果実被害の増加を招いている果樹カメムシ類、若木が突然枯死し、経済損失を招く急性枯死症などが大きな問題となっている。特にクビアカツヤカミキリは発生地域が拡大し、国においても対策本部が設置されるなど、防除体制の強化が進められている。一方、防除現場では労働力不足への対応や環境負荷低減の観点から、ドローンを活用した農薬散布技術等への期待が高まっている。

そこで本研究会では、果樹生産の現場で顕在化しているこれらの課題を取り上げ、最新の発生動向や研究成果、防除技術の開発状況、現地での実践事例について共有する。また、病害虫の発生予察、高精度モニタリング、スマート防除技術の活用の可能性について議論し、今後の研究課題や効果的な総合防除体系の構築に向けた方向性を検討する。

【あいさつ】 農研機構果樹茶業研究部門所長　草塲　新之助

【話題提供】

１．クビアカツヤカミキリの対策について

農林水産省　消費・安全局　植物防疫課　国内防除第１班　井ノ口修司

2．クビアカツヤカミキリに関する研究開発の現状について

農研機構果樹茶業研究部門果樹基盤研究領域　上地奈美

3．果樹カメムシ類の発生生態と近年の多発生を巡る課題

農研機構果樹茶業研究部門果樹基盤研究領域　外山晶敏

4．果樹胴枯細菌病　-近年増加する古くて新しい病害-

農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域　佐々木厚子

5．愛媛県におけるカンキツのドローン防除についての取組み

愛媛県農林水産研究所 果樹研究センター　青野光男

落葉果樹研究会

令和9年1月26日（火）13:30 ～ 1月27日（水）11:20

【趣旨】

落葉果樹の栽培分野に関連して、樹種・分野別に核果類、土壌、ナシ、ブドウ・カキ、気象の5つのセッションを設け、最近のトピックス等の話題を提供し、情報共有と論議を進めることで、落葉果樹栽培分野における研究開発の一層の推進を図る。

【話題提供】

① 核果類等

令和9年1月26日（火）13:30～14:10

１）ウメ「露茜」安定生産のための 片側一文字仕立て栽培管理技術の開発
和歌山県果樹試験場うめ研究所 城村 徳明

２）省力型生産体系にも対応できる果樹の獣害対策技術
農研機構畜産研究部門 中村 大輔

② 土壌

令和9年1月26日（火）14:10～15:10

１）暗きょ設置がモモ幼木の花芽の凍害発生危険温度に及ぼす影響
農研機構果樹茶業研究部門 堀井 幸江

２）土壌物理性の改良によるモモ核割れやブドウ裂果の抑制効果
山梨県果樹試験場 加藤 治

３）ドローンを活用した水田転換圃場における乾湿の診断技術の確立
岡山県農林水産総合センター 寺地 紘哉

--------休憩 30分--------

③ ナシ

令和9年1月26日（火）15:40～16:40

１）ナシ「新甘泉」における日焼け果の発生要因と対策
鳥取県園芸試験場 中西 彩歌

２）近年の栃木県における「にっこり」の高温障害の発生および対策への取り組みについて
栃木県農業総合研究センター 岡本 春明

３）ナシ「凜夏」におけるトンネルハウス栽培での生育特性および露地栽培での着果程度と収量性
熊本県農業研究センター果樹研究所 古田 和秀

④ブドウ・カキ

令和9年1月27日（水）9:00～10:20

1）深層学習モデルを利用したカキ着果量評価の試み
奈良農業総合研究センター　米田　健一

2）摘葉処理がカキ「輝太郎」の果実品質に及ぼす影響
鳥取県園芸試験場、稲本俊彦

3）作業負荷軽減および収量性向上を目的とした「シャインマスカット」2段仕立て法の開発
佐賀県果樹試験場　児玉　龍彦

4）加温栽培ブドウにおけるハイブリッド加温と日射比例型省エネ加温法の検討
島根県農業技術センター　三島　晶太

⑤ 気象

令和9年1月27日（水）10:20～11:20

1）気候変動がカキ早生・中生品種に与える影響と予測
岐阜県農業技術センター　林 秀輔

2）果樹の温暖化による気象被害予測システムの開発　－ リンゴの日焼け果発生予測について －
石川県農林総合研究センター　山内 大輔

3）低温要求量の少ないモモ品種の育成
農研機構果樹茶業研究部門　八重垣 英明

常緑果樹研究会

「更なる温暖化に向けた常緑果樹栽培の取り組み」

令和９年１月２６日（火）　１３：３０～１６：４０

【趣　旨】

2026 年の夏は 40℃以上の酷暑日を観測する地点が延べ 34 地点に達し、全国の平均気温が 3 年連続で更新される歴史的な暑さとなった。近年、気候変動の進行により夏季の高温化が顕著となり、果樹産業では日焼け果の増加、着色遅れ、肥大不良、病害虫の多発など、従来の栽培体系では対応しきれない課題が顕在化している。こうした環境変化は産地の競争力や品目構成にも影響を及ぼし、持続的な果樹生産のためには新たな技術導入と地域特性に応じた適応策が不可欠である。本研究会では、①温暖化への具体的対策、②新規品目導入の可能性、③寒冷地でのカンキツ栽培の展開という三つの視点から、今後の常緑果樹栽培の課題・方向性を共有し、産地の将来像を議論する場としたい。

【話題提供】（1 課題 25 分程度（質疑応答含む））

１）「温暖化が常緑果樹栽培に及ぼす影響」
農研機構果樹茶業研究部門　杉浦俊彦

２）「防風ネットを用いた極早生ウンシュウミカンの日焼け果発生軽減技術の検討」
三重県農業研究所 紀南果樹研究室 宮本涼平

３）「福岡県における日焼け果発生防止の取り組み」
福岡県農林業総合試験場果樹部　松下竜一

４）「和歌山県における亜熱帯果樹にかかる取り組み」
和歌山県果樹試験場栽培部　山本浩之

５）「果樹における耐寒性の評価」
鹿児島大学農学部　山本雅史

６）「富山県におけるカンキツ栽培の取り組み」
富山県農林水産総合技術センター園芸研究所果樹研究センター　杉山洋行

７）「山形県におけるカンキツ栽培の取り組み」
山形県庄内総合支庁産地研究室　明石秀也

【資料配付について】

当日は常緑果樹研究会会場入口にて、講演要旨を配付いたします。また、会場入口にて、二次元バーコードにより、講演要旨ダウンロードを可能とする予定です。

果樹病害研究会開催要領

「果樹類炭疽病発生の現状と防除上の問題点」
令和９年１月 26 日（火）１３：３０ ～ １月 27 日（水） １２：００

【趣 旨】
日本植物病名目録によれば、果樹では現在 38 の宿主で炭疽病の発生が記録されている。炭疽病を引き起こす病原菌はその種類が多いこと、種々の植物に寄生すること、未だ発生生態に不明な部分があることなど、これら特性が炭疽病の防除を難しくしている。さらに有効な薬剤が限られ現場では防除対応に苦慮している現状とともに、気候の温暖化および降雨量の増加により、本病による被害が助長されることが懸念されている。本研究会では主要な樹種における炭疽病の発生状況、防除上の問題点について広く情報を共有し、今後の炭疽病防除研究の展開に資することを目的とする。

【検討事項】
１）果樹類炭疽病発生の現状と防除上の問題点【非公開】
「青森県におけるリンゴ炭疽病の現状と課題」
青森県産業技術センターりんご研究所 花岡朋絵
「山形県におけるおうとう病害の現状と問題点について」
山形県農業総合研究センター園芸農業研究所 後藤新一
「茨城県におけるナシ炭疽病の発生状況と防除上の課題」
茨城県農業総合センター園芸研究所 井上麻里子
「ブドウ遺伝資源における晩腐病耐病性品種の探索」
農研機構果樹茶業研究部門果樹基盤研究領域 清水健雄
「（仮題）モモにおける炭疽病発生の現状と防除上の問題」
山梨県果樹試験場 鶴田 茜
「カキにおける炭疽病発生の現状と問題点」
和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 大谷洋子
「香川県におけるキウイフルーツ炭疽病の発生状況と防除上の問題点」
香川県農業試験場府中果樹研究所 生咲 巌
「ブドウ晩腐病菌の効率的な分生胞子形成法」
農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域 須﨑浩一
2）（自由発表）各県等における研究成果【公開】

【開催方法について】
果樹病害研究会は対面のみで開催します。オンライン併用はございませんので、ご留意願います。

【発表課題の募集について】

１）発表は学会に準じた形式で行います。質疑応答を含めて 1 課題あたり重点検討テーマが 30 分（発表 25 分、質疑 5 分が目安）、その他の発表は 15 分（発表 12 分、質疑 3 分が目安）を予定しています。

２）自由発表の演題は研究成果のほか、各研究機関で重点的に取り組んでいること、近年発生が問題となり防除に苦慮している病害など、他県と情報・意見交換をしたい事項など発表内容に制限は設けません。多数の応募を歓迎します。

３）講演要旨の様式については、**重点検討課題、自由発表ともに別紙様式 2** とします。**自由発表を希望される場合は講演要旨が発表申込書になります**。要旨はファイル共有システム等で農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域　須﨑浩一　（suzaki.koichi943@naro.go.jp）までお送りください。いずれの要旨も**提出期限は令和 8 年 12 月 25 日（金曜日）**とします。

４）重点検討課題については【非公開】、自由発表は【公開】で開催します。重点検討課題を聴講の場合は誓約書をご提出いただきます。また自由発表にかかる内容で知財等を取得予定の場合には、ご注意ください。

※　別紙様式 2「果樹病害研究会講演要旨（重点検討、自由発表共通）」は以下の URL からダウンロードして利用可能です。

URL：https://www.naro.affrc.go.jp/nifts/contents/kaigi/index.html

果樹虫害研究会

「クビアカツヤカミキリの発生・被害状況と総合対策」

令和９年１月２６日（火）１３：３０ ～ １月２７日（水）１２：００

【趣旨】

クビアカツヤカミキリは、中国・朝鮮半島等を原産とする侵略的外来種であり、果樹生産においても、モモ、スモモ、ウメなどのバラ科果樹やサクラを中心に大きな脅威となりつつある。我が国では2012年の初確認以降、発生地域の拡大が続いており、2026年9月現在、22都府県で分布が確認されている。果樹産地でも被害が顕在化するなか、産地の維持や果樹経営への影響が懸念されるなど、本種は我が国の果樹生産における重要課題の一つとなっている。これに対し、これまで国、自治体、研究機関等が連携し、本種の生態解明や防除技術の開発に取り組んできた。その結果、樹幹被覆やネット利用、成虫捕殺、被害樹の伐採・処理などの物理的防除をはじめ、薬剤防除や診断技術など、多様な対策技術が開発されている。一方で、本種は穿孔性であるため発見が難しく、単一の防除手段のみで被害拡大を防ぐことは困難である。また、いったん定着すると防除には多大な労力とコストを要することから、早期発見・早期防除を基本とした総合的な防除体系の確立と、果樹産地における効率的な運用手法の構築が求められている。

本研究会では「クビアカツヤカミキリの発生・被害状況と総合対策」を重点検討テーマとして取り上げる。発生状況や果樹被害の実態、国や自治体における対策について紹介いただくとともに、防除技術の開発・普及に向けた課題や今後の研究開発の方向性について議論する。また、クビアカツヤカミキリによる被害の軽減と持続的な果樹生産に向けた対策の方向性について検討を深める。さらに、近年問題となっている果樹害虫の発生動向や防除上の課題についても各県等から広く話題提供をいただき、情報交換を行う。

【話題提供】

１．重点検討テーマ「クビアカツヤカミキリの発生・被害の状況と総合対策」

1)「クビアカツヤカミキリの発生状況と対策」
農研機構果樹茶業研究部門　上地奈美

2)「和歌山県における防除技術開発の現状と展望」
和歌山県果樹試験場かき・もも研究所　弘岡拓人

3)「栃木県における発生状況と防除対策」
栃木県農業総合研究センター病理昆虫研究室　吉澤比英子

4)「徳島県における発生状況と防除対策」
徳島県農林水産総合技術支援センター　広岡佑太

5)「大阪府のサクラにおける発生状況と防除対策」
大阪府立環境農林水産総合研究所　山本優一

２．特別講演

1)「ミカンヒメコナカイガラムシの生態と防除」

農研機構果樹茶業研究部門 新井朋徳

2)「秋田果樹試一筋38年を振り返って～どう研究してきたか～」

秋田県果樹試験場 舟山　健

3. 自由発表：各県等における最近の課題

令和８年度の果樹害虫発生動向、防除技術、防除に関する問題点などに関わる発表課題を広く募集する。

【開催方法について】

対面のみで実施されます。オンライン併用のハイブリッド開催ではありません。

【発表課題の募集について】

１）本研究会は【公開】で開催されるため、発表内容は開示されたものとして扱われます。特許等の知的財産権の取得を予定している場合は、ご注意ください。

２）発表は学会に準じた形式で行います。質疑応答を含めて、１課題あたり15分～20分程度を予定しています。申し込み者多数の場合には、発表課題数や発表時間を調整させていただきます。

３）内容は特に指定しません。各研究機関で重点的に取り組んでいること、新規に発生が認められた害虫、最近増加してきた害虫、防除等での対応に苦慮している害虫、新しい防除技術等々、果樹害虫全般について情報交換・意見交換をしたいことであれば何でも結構です。お気軽にお申込み下さい。

４）発表を希望される方は、【別紙３】の「虫害「情報交換」課題発表申込書」に必要事項をご記入のうえ、Eメールで農研機構果樹茶業研究部門 果樹基盤研究領域 外山晶敏（toyama.masatoshi111@naro.go.jp）までお送り下さい。申込書の提出期限は令和８年１２月２１日（月）とします。

５）講演用のパワーポイントファイルは、いずれも令和９年１月１１日（月曜日）までにご提出ください。提出方法についてはご発表予定の皆様に別途ご連絡します。

※【別紙３】の課題発表申込書は以下のURLからダウンロードして利用可能です。

URL：https://www.naro.affrc.go.jp/nifts/contents/kaigi/index.html

寒冷地果樹研究会

「近年の寒冷地果樹関連の成果と課題」

令和９年１月２２日（金）９：００～１２：００

キオクシアアイーナ803会議室

【趣旨】

寒冷地果樹産地におけるこれまでの技術開発の取り組みや課題を踏まえ、持続的な発展を可能にする技術体系確立に向けて、情報の共有と論議を進め、一層の連携と研究推進を図る。

【話題提供】

１．青森県における近年の成果と課題
２．岩手県における近年の成果と課題
３．宮城県における近年の成果と課題
４．秋田県における近年の成果と課題
５．山形県における近年の成果と課題
６．福島県における近年の成果と課題
７．群馬県における近年の成果と課題
８．長野県における近年の成果と課題
９．富山県における近年の成果と課題
10. 農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域における近年の成果と課題

【発表方法】

１）発表は学会に準じた形式で行い、質疑応答を含めて、１課題あたり20分程度を予定しています。

２）発表要旨の作成をお願いします。発表要旨は、当日に会場で配布します。発表要旨の様式および提出期限は、事務局より別途お知らせします。

【その他】

同じ会場で、13:30から、東北農業試験研究推進会議果樹推進部会が開催されます。その会のはじめに、「果樹用管理ロボットの開発の現状と課題、将来展望（仮題）」の内容で、東京大学情報理工学系研究科の深尾隆則教授の講演があります。この講演だけは公開しますので、興味のある方は引き続きご参加ください。

（事務局）

農研機構果樹茶業研究部門　リンゴ研究領域　岩波　宏

Tel: 019-641-6355

E-mail: iwanami.hiroshi762@naro.go.jp